鉄鋼・非鉄金属

1．評価対象企業（15 社）

【鉄鋼】（6 社）

日本製鉄、神戸製鋼所、JFE ホールディングス、東京製鐵、丸一鋼管、大同特殊鋼

【非鉄金属】（9 社）

日本軽金属ホールディングス、三井金属、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWA ホールディングス、UACJ、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	3	15
③フェア・ディスクロージャー	**フェア・ディスクロージャー**	2	5
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	15
計		13	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 19 名（所属先 16 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 本年度は、主に**経営陣の IR 姿勢等、説明会等**および **ESG 関連**の項目数・内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 73.2 点（昨年度 76.7 点）、総合評価点の標準偏差は 6.5 点（昨年度 5.9 点）となった。

② 業態別の総合評価平均点を見ると、鉄鋼（6 社）は 73.2 点（昨年度 77.4 点）となり、非鉄金属（9 社）は 73.1 点（昨年度 76.2 点）となった。評価対象企業 15 社のうち 12 社の総合評価点が下がった。

③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 72%（昨年度同率）、**説明会等**が 76%（昨年度 82%）、**フェア・ディスクロージャー**が 90%（昨年度 89%）、**ESG 関連**が 72%（昨年度 76%）、**自主的情報開示**が 71%（昨年度 78%）となった。

④ 評価項目について見ると、全 13 項目中、**フェア・ディスクロージャー**の中の 2 項目(a)・(b) が平均得点率 85%以上となり、高水準であった。また、**ESG 関連**の以下の項目（c）の平均得点率は 60%台となり、全項目の中で最も低くなった

(a)　「毎四半期決算において、英文の説明会資料を作成し開示していますか」（平均得点率 97%〔昨年度同率〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：50%台 1 社・100% 14 社）

(b)　「決算説明会、事業説明会、工場見学会等の内容を、動画、音声、議事録等を通じて、公平にウェブサイトに掲載していますか」（平均得点率 86%〔昨年度 84%〕）（得点率：40%台 1 社・70%台 1 社・80%台 2 社・90%台 11 社））

(c)　「社外取締役の対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか」（平均得点率 60%〔昨年度 57%〕）（得点率：30%台 1 社・40%台 1 社・50%台 6 社・60%台 3 社・70%台 3 社・80%台 1 社）

(2)　**上位３企業の評価概要**

第 1 位　ＵＡＣＪ（ディスクロージャー優良企業〔3 回連続 3 回目〕、総合評価点 81.1 点〔昨年度比－5.6 点〕）

①　同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉83%）、**ESG 関連**（80%）が第 1 位、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 3 位（96%）、**自主的情報開示**が第 5 位（79%）、**説明会等**が同得点第 7 位（78%）となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」（2 項目計）が最も高い評価となった。これに関連して、経営トップによる積極的な IR 活動、特に IR Day の定期開催を通じて、トップの考えや会社方針を積極的に発信する透明性の高い姿勢や、企業価値向上および資本コストへの明確な意識を評価する声が寄せられた。また、「IR 部門の機能」も第 4 位となった。これに関連して、IR 部門に十分な人員が配置されていることに加え、イベントを含めて経営陣が積極的に IR 活動へ関与しており、IR 部門の重要性を認識した体制整備を評価する声があった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。

③　**説明会等**においては、「説明会資料等における実績および見通しの開示」が同得点第 4 位となった。「説明会、インタビューにおける開示」（2 項目計）は同得点第 6 位となった。これらに関連して、会社計画や海外事業に関する開示の充実を望む声があった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が満点評価（同得点第 1 位）となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」は同得点第 3 位となった。これらに関連して、ESG 説明会や工場見学等の資料も開示し、質疑応答原稿も開示が早いとの声が寄せられた。

⑤　**ESG 関連**においては、「脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」および「人的資本、サプライチェーンマネジメント、労働安全衛生、品質安全性、社会貢献に関する情報を定性・定量両面で開示していること。また、その対応方針を積極的に開示し、企業価値向上との関連性を説明していること」が共に同得点第 1 位となった。これらに関連して、サステナビリティ説明会において社長自らが出席し、ESG の取組みについて丁寧に説明していることに加え、企業価値向上を意識した ESG 経営を実践する経営姿勢を評価する声が寄せられた。また、社外取締役が登壇する ESG 説明会の実施を評価する声があった。

⑥　**自主的情報開示**の「工場見学、事業説明会、技術説明会、供給制約等のリスク情報の迅速な開示等を実施し、かつその内容が充実していること」は第 5 位となった。充実していたイベントとして、IR Day や航空宇宙関連見学会などを挙げる声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　日本製鉄（総合評価点 78.1 点〔昨年度比－3.8 点〕、昨年度第 3 位）

①　同社は、**説明会等**（81%）、**ESG 関連**（77%）が同得点第 2 位、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 3 位（96%）、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 5 位（76%）、**自主的情報開示**が第 6 位（75%）となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となった。これに関連して、開示内容や説明会資料が充実していることに加え、財務・非財務の双方に十分な人員が配置されていることがうかがえ、IR 担当者の高い情報水準や、IR 部門に対する十分な資源配分と体制整備を評価する声が寄せられた。また、「経営

陣のIR姿勢」（2項目計）は第7位となった。これに関連して、将来戦略を明確に語る姿勢や、社長スモールミーティングの実施など、投資家との対話を重視した積極的な情報発信を評価する声が寄せられた。なお、資本効率へのコミットメントの強化を望む声もあった。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」（2項目計）が最も高い評価となったほか、「説明会資料等における実績および見通しの開示」は同得点第4位となった。これらに関連して、説明会資料や説明内容が充実しており、分かりやすい情報提供を評価する声が寄せられた。また、企業分析に有益なコミュニケーションが行われていることを評価する声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が満点評価（同得点第1位）となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」は同得点第3位となった。これらに関連して、説明会資料がホームページ上で閲覧可能であるなど、情報へのアクセス性に配慮した開示姿勢を評価する声があった。

⑤ **ESG関連**においては、「経営陣のESGに対する取組姿勢」が最も高い評価となった。「脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」も同得点第1位となった。これらに関連して、革新技術開発をはじめとする社会課題解決に向けた積極的な投資・研究開発の取組について、ESG説明会などを通じて積極的に情報発信していることに加え、定量データの開示が充実している点を評価する声が寄せられた。

⑥ **自主的情報開示**の「工場見学、事業説明会、技術説明会、供給制約等のリスク情報の迅速な開示等を実施し、かつその内容が充実していること」は第6位となった。充実していたイベントとして、九州製鉄所八幡地区見学会、ESG説明会を挙げる声が多く寄せられた。一方で、生産トラブルなど供給制約に関する開示には課題があるとの声があった。

第2位　丸一鋼管　（総合評価点78.1点〔昨年度比−0.9点〕、昨年度第6位）

① 同社は、**説明会等**が第1位（83%）、**フェア･ディスクロージャー**（98%）、**自主的情報開示**（80%）が同得点第1位、**経営陣のIR姿勢等**が第3位（78%）、**ESG関連**が第8位（72%）となった。

② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」（2項目計）は第4位となった。これに関連して、経営トップが出席する各種説明会や工場見学会、スモールミーティング、海外拠点長説明会などを定期的に開催することで、投資家との対話機会を積極的に設け、企業価値向上への高い意識を持って情報発信している点を評価する声が寄せられた。また、「IR部門の機能」が同得点第5位となった。

③ **説明会等**においては、「説明会資料等における実績および見通しの開示」が最も高い評価となった。「説明会、インタビューにおける開示」（2項目計）は同得点第4位となった。これに関連して、企業分析に有用な数値情報の開示が充実しており、マクロ環境や個社施策に関する豊富な情報提供、継続的な定量データなど、分析に必要な情報提供が行われている点を評価する声が寄せられた。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」が共に同得点第1位となった。これらに関連して、2025年秋の米国工場見学会の資料をホームページ上に迅速に開示するなど、タイムリーで公平な情報提供に努める姿勢を評価する声が寄せられた。

⑤ **ESG関連**においては、「経営陣のESGに対する取組姿勢」が第5位となった。「脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」（同得点第7位）は、前回に比べ得点率が下がった。

⑥ **自主的情報開示**の「工場見学、事業説明会、技術説明会、供給制約等のリスク情報の迅速な開示等を実施し、かつその内容が充実していること」は同得点第1位となった。充実していたイベントとして、海外拠点長事業報告会、海外拠点の工場見学会、ESG説明会を挙げる声が寄せられた。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（鉄鋼・非鉄金属）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 35点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目3（配点 15点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 30点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 15点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5741　ＵＡＣＪ	81.1	28.9	1	11.7	7	4.8	3	23.9	1	11.8	5	1
2	5401　日本製鉄	78.1	26.7	5	12.1	2	4.8	3	23.2	2	11.3	6	3
2	5463　丸一鋼管	78.1	27.2	3	12.4	1	4.9	1	21.6	8	12.0	1	6
4	5706　三井金属	77.9	26.8	4	11.7	7	4.7	8	22.7	5	12.0	1	4
5	5713　住友金属鉱山	77.4	27.9	2	11.3	10	4.7	8	22.4	6	11.1	7	9
6	5406　神戸製鋼所	77.2	26.1	7	12.1	2	4.8	3	23.2	2	11.0	9	2
7	5471　大同特殊鋼	76.2	26.7	5	11.9	4	4.8	3	20.9	9	11.9	3	13
8	5411　ＪＦＥホールディングス	75.4	25.4	8	11.8	5	4.9	1	22.4	6	10.9	11	5
9	5711　三菱マテリアル	73.7	25.1	9	9.8	15	4.7	8	23.1	4	11.0	9	7
10	5703　日本軽金属ホールディングス	72.2	24.5	11	11.2	11	4.7	8	19.9	13	11.9	3	10
11	5802　住友電気工業	71.8	24.5	11	11.8	5	4.3	14	20.1	11	11.1	7	12
12	5714　DOWAホールディングス	71.7	25.1	9	11.5	9	4.5	12	20.0	12	10.6	12	11
13	5801　古河電気工業	68.4	23.4	13	10.3	13	4.8	3	20.4	10	9.5	13	14
14	5803　フジクラ	66.4	23.3	14	10.5	12	4.5	12	19.8	14	8.3	14	8
15	5423　東京製鐵	54.6	17.1	15	10.3	13	2.2	15	18.2	15	6.8	15	15
	評価対象企業評価平均点	73.15	25.15		11.35		4.52		21.46		10.67		

2026年度の具体的評価項目および配点　（鉄鋼・非鉄金属）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス　（35点）	**配点**	**委員のみ**
(1)経営陣のIR姿勢		
①経営トップが企業価値向上（成長期待、資本効率、資本コスト）への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。一方、投資家の懸念（事業リスク等）を理解し、それに応えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**15**	
②経営陣は、キャピタルアロケーションや資本政策について、具体的・納得性のある方針を示していますか。	**5**	
(2)IR部門の機能		
・経営トップがIR部門の重要性を認識し、十分な資源配分を行っていますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど） 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**15**	
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示　（15点）	**配点**	**委員のみ**
(1)説明会、インタビューにおける開示		
①決算説明会等における会社側の説明は十分ですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**	
②インタビューにおいて、企業分析に有益な対話がなされていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**	
(2)説明会資料等における実績および見通しの開示		
・収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されており、かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	**5**	
3．フェア・ディスクロージャー　（5点）	**配点**	**委員のみ**
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢		
・毎四半期決算において、英文の説明会資料を作成し開示していますか。	**2**	●
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供		
・決算説明会、事業説明会、工場見学会等の内容を、動画、音声、議事録等を通じて、公平にウェブサイトに掲載していますか。	**3**	
4．ESGに関連する情報の開示　（30点）	**配点**	**委員のみ**
(1)経営陣のESGに対する取組姿勢		
・経営トップが企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に統合報告書等の資料、説明会等で的確に伝えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**15**	
(2)ESGに関する情報開示		
①脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか。	**5**	
②人的資本、サプライチェーンマネジメント、労働安全衛生、品質安全性、社会貢献に関する情報を定性・定量両面で開示していますか。また、その対応方針を積極的に開示し、企業価値向上との関連性を説明していますか。	**5**	
③社外取締役の対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。	**5**	
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示　（15点）	**配点**	**委員のみ**
・工場見学、事業説明会、技術説明会、供給制約等のリスク情報の迅速な開示等を実施し、かつその内容は充実していますか。［過去1年間を目安に評価］ 【充実していた工場見学や説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	**15**	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

鉄鋼・非鉄金属専門部会委員

部　会　長	山口　　敦	SMBC 日興証券
部会長代理	五老　晴信	UBS 証券
	井上　　崇	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	尾崎　慎一郎	大和証券
	白川　　祐	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
	竹元　宏和	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	松本　裕司	野村證券

評価実施アナリスト(19 名)

井上　崇	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	添谷　昌生	りそなｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
岩﨑　彰	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	竹元　宏和	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
岩崎　香織	野村證券	西脇　秀敏	三菱 UFJ 信託銀行
尾崎　慎一郎	大和証券	新田　哲郎	SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
菊崎　雄太	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	畑澤　巧	三菱 UFJ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
幸地　竜希	三菱 UFJ 信託銀行	藤岡　哲也	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
五老　晴信	UBS 証券	松本　裕司	野村證券
齊藤　博之	水戸証券	南　純一	りそなｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
柴田　竜之介	SBI 証券	山口　敦	SMBC 日興証券
白川　祐	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券		

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。